

大きく変わる学校

サイエンスコース新設

横浜創英中学校



横浜創英中学・高等学校は1940年に京浜高等女学校として創立され、戦後の学制改革で京浜女子高等学校となり、その後も何回か校名を変更、中学を休止していた時期もありましたが、2002年に高校を共学化、2003年に中学校を再開して共学の進学校に生まれ変わりました。その後は順調に進学校としての実績を伸ばさせています。次の発展へのステップとして、さらに教育内容のバージョンアップを図ることになりました。2022年度から中高一貫のサイエンスコースを新設します。

1. 新コース設置の理由

現在横浜創英高校は、国公立大や早慶、上智、東京理科大などの最難関私大をめざす特進コース、GMARCH(学習院、明治、青山、立教、中央、法政)や準難関大学をめざす文理コース、日大、東洋大、駒澤大、専修大をはじめとする中堅私大や多様な進路をめざす普通コースの3コース制です。7時間授業、補習や特別講座なども実施され、中学からの内部進学生は高校からの入学生と合同のクラスとなって目標大学をめざして、多くの合格実績を挙げてきました。

ところで、現代社会は高度な科学とそこから生み出される技術に支えられていますが、よくわからないまま使用することで重大な事故や悪影響を与えたりする事例が起きています。また、様々な社会課題の解決策として科学技術を利用していく必要があります。そのため大量の情報の真偽を見定める力も必要で、科学リテラシーを必要とする場面が増えています。これからの社会をつくっていく一人ひとりが「科学の視点・方法論」で物事を考えられることが求められています。そこで、在来のクラスは本科コースとし、2022年度から6年一貫のサイエンスコースを新設、2コース制とすることになりました。

2. サイエンスコースの概要

高校入学生とは別クラスの6年一貫教育で、通常の教科の学習だけでなく、探究活動を軸に、自らの興味関心を発見・深め、科学的に考えて行動できる「自律した学習者」の育成を目指します。サイエンスという

と理数系のイメージですが、社会科学や人文科学も深める内容で、仮説を立てて検証する力など(=サイエンスリテラシー)を習得します。文系・理系といった分け方は過去のものになりつつありますが、サイエンスコースでは、身に付けたリテラシーを十分活用して、今後増えていくことが予想される学際的な分野で活躍できる人を育成します。

3. サイエンスコースの主な取り組み

日々の授業と、「課題の発見」「課題の追求」「課題の解決」といった探究活動をリンクさせた教育内容、豊富な実験・実習・体験プログラムやフィールドワークの実施、ICT機器の積極活用、校内だけでなく大学や企業を積極的に訪問し、学校外のリソースをフルに活用した学びを実践します。大切なのは生徒自身の主体的な取り組みですから、チャレンジ→意外性の実感や達成感→楽しさ、感動→さらなる興味関心といったサイクルで、ワクワク感がある学びを繰り返します。

4. 創英のチャレンジ

現在本校では固定担任制を廃止し、道徳の授業でパブリックリレーションズ(組織とその組織を取り巻く人間との望ましい関係を作り出すための考え方や行動のあり方、アメリカでは以前から実施されている)の導入や、アフタースクール(放課後の自主的な学び)でのロボットの組み立て、ワールドピースゲームから発展したグループ活動の実施など、新たなチャレンジが続いていますが、サイエンスコースでもこうしたチャレンジは続けていきます。